

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	えんのういん
8-5	<b>圓能院</b>

えんのういん  
**圓能院**

エリア	中央地区	シーズン	通年
	渡田・京町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



賢海禅師地藏像

太田やす奉納の弘法大師座像と台座（第巻番）



新本堂完成予想図

写真提供：圓能院/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区小田-1-25-12
問い合わせ	圓能院
TEL	044-333-4476
FAX	044-366-6972
E-mail	
URL	<a href="http://www.ennouin.jp/">http://www.ennouin.jp/</a>
交通	J R川崎新町駅より徒歩6分



### 基礎情報

■真言宗の寺。正式名称は金澤山圓能院福泉寺。創建年代は平安時代の天暦から康保(946～967)の頃とされ、寛永から寛文年間(1624～1673)に再興され大いに法灯を輝かしたと伝えられる。文政6年(1823)には川崎大師平間寺から三十六世隆純法印を迎え寺門興隆が図られた。約2000坪の境内には川崎区最古の地藏尊石造とされている「光性院賢海禅師地藏像」の他、「木造大日如来座像」、「木造弘法大師座像」「木造興教大師座像」「木造薬師如来立像」などがある。

■成就院から圓能院、鶴見区菅沢町へと続く道はかつて菅沢道と呼ばれた。鎌倉道の一部であったといわれている。

### 由来・エピソード

■「光性院賢海禅師地藏像」は寛永13年(1636)につくられたもの。旅の行者であった賢海禅師が晩年に小田の地に往生するにあたり、穴の中で鉦(かね)をたたきながら念仏三昧に入った。「鉦の音が消えたなら成仏した証拠であるから供養する者には願をかなえてやろう。」という遺言にしたがって地藏尊像が建てられ、以降多くの信仰を集めてきたという。

■戦災を免れた山門には嘉永2年(1849)の憲證和尚の書による「圓能院」の額が掛かる。

■江戸時代、小田に住んでいた「太田やす」という女性が、はじめに圓能院に弘法大師像を奉納し、四国八十八ヶ所巡礼と西国・坂東・秩父の百ヶ所を巡ったと伝えられている。当時、奉納者は主に男性であり、女性は稀れであったという。圓能院には文政6年(1823)、文政12年(1829)、天保2年(1831)の3回にわたって弘法大師像が奉納されている。やすは亡き娘の菩提を弔い供養のため諸国を巡拝したと伝えられ、四国八十八ヶ所霊場のそれぞれの弘法大師像の写しを小田村を中心とした八十八ヶ所に奉納しようとしたが志半ばで潰えてしまったという。現在鶴見区から大田区にかけての寺院において28基までが確認されている。圓能院以外にも小川町の教安寺(浄土宗)や堀之内町の幸福寺(天台宗)、本町の一行寺(浄土宗)など宗派をこえて弘法大師像の奉納が受け入れられており、やすの篤い信仰心に他宗のお坊様も強く心を動かされたものとみられている。

### 補足・その他

### 関連シート

- (1-7) 一行寺・閻魔・地獄極楽絵
- (2-6) 教安寺
- (8-6) 小田の赤飯まんじゅう